

第3回 名張市地域公共交通会議 事業推進部会 議事概要

日 時 平成29年9月21日（木）

午後1時30分より

場 所 名張市役所 庁議室

出席者：（敬称略）

（1）委員

中平 恭之（近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科准教授）

豊永 育子（公益社団法人三重県バス協会）

姫野 光子（名張市老人クラブ連合会女性部副会長）

寺岡 正和（名張市保育所（園）保護者会連絡協議会会長）

勝木 祥文（名張商工会議所 総合商業部会長）

石川 裕三（市民公募）

藤本 勝（市民公募）

木寺 正仁（市民公募）

田中 明子（名張市地域環境部部長）

（2）事務局

都市整備部都市計画室4名

1. 開会

2. あいさつ

各委員のあいさつ、部会長による副部会長の指名を行う。

3. 議事

（1）平成29年の取組について

①バスマップの作成について

事務局 （資料に基づき説明）

部会長 バスマップの作成について、ご意見、ご質問ございますか。

委員 バスへの乗込み調査は以前もされているのですか。

事務局 しております。

委員 調査の項目が多いようなので、バスに乗られている時間にすべて聞くことができるのでしょうか。

事務局 我々も2年前に初めてさせていただいたのですが、それほどたくさんの項目ではないと思います。実際に実施した感想といたしましては、可能であると思います。

委員 1人、2人だと大丈夫だと思いますが、たくさん乗ってこられるとその方のアンケートは取れなくなると思うのですが、それは仕方ないとお考えですか。

事務局 毎月報告されている利用状況からすると、1便にたくさん乗ってこられるということはございませんので、大丈夫だと思います。

委員 これはあくまでもバスに乗った方に感想を聞くような調査になると思うのですが、バスが走っている地域のニーズの掘り起こしについては広くアンケート調査をしないのでしょうか。この調査の主旨はバスに乗った方にご意見を聞くという理解でよろしいでしょうか。

部会長 地域住民へのアンケート調査もしたほうがよりよいと思いますが、アンケートをするにも分析をするにも時間や費用がかかってしまいますので、今回は乗り込み調査で利用者の目線からどういった利用ができるのかというところをバスマップにおこしていきたいと思っています。予定ではバスマップの完成は3月となっていますが、ここで終わりではなくて、あくまでここでは「案」を作成させていただくということであり、バスマップは年々変化させていかなければなりません。例にある十勝バスも1度作って終わりということではなく、改良したりしていると思います。今回は、とりあえず利用者目線から作っていききたいということです。

委員 何かをはじめないと、物事は動きませんので、第一段階として、利用者目線から見たバスマップの案を作る取組という理解でよろしいですか。

部会長 はい。できたものはまた公表されると思うので、それを見た地域住民の方に向けてアンケートをとってもいいですし、こういう情報を載せてほしいというのもあると思います。十勝バスマップの裏面を見てみますと、小さな文字の時刻表が乗っていますが、字が小さい時刻表は利用されないということも言われておりますので、そういうところをどうするのかということもあると思います。今回は利用者の目線で作ってみようということで、様々な視点もあると思いますが、それは案を出した後に意見を集約すればよいと思います。

委員 はたっこ号の時刻表はないのでしょうか。

事務局 本日の資料としてはご用意しておりません。(後で配付)

委員 時刻表は本数も少ないと思いますし、こんなに細かいものにはならないと思います。

事務局 はたっこ号は、1日8便で運行しております。

委員 アンケートをする時間帯はこちらで決めるのか、それともただ無差別な時間で調査するのか。それによって利用する場所が時間帯によって変わってくると思います。

部会長 乗込み調査は全便起点から終点まで行います。

委員 それはみなさんで乗り込むのですか。それとも当番でしょうか。

部会長 基本的には2人体制での実施を考えています。

事務局 2人で十分だと考えます。

委員 これは、協力してもらうのは、腕章か何かをはめてアンケートをとるのでしょうか。

事務局 「調査員」という腕章を準備させていただきます。

委員 そうしたら乗客にはある程度の協力はしてもらえということですか。

事務局 以前実施した際には、調査拒否される方は特にはいっしやらなかったと思います。要は聞き取り調査ですので、項目は確かにたくさんあるのですが、さほど時間はかからないです。さらに、不思議とバスに乗っている方はおしゃべりが好きな方が多く、いろんなことを教えてくれます。まずは利用者の方が実際どんな使い方をしているのか、そういったことを近隣の方にお知らせしたら、お友達と一緒に乗ってくれることや、こんな使い方があったのかといった新しい気づきになるという期待もございます。乗込み調査は乗り込

んでくる方にしか聞きませんが、これを整理するワークショップには、バスに乗っていない方、バス停の近くにお住いの方、普段バスに乗っている方のお友達などの方にも来ていただいて、バスマップの作成をしていきたいと思います。十勝バスの例にもありますけれども、こういうマップを目指すとして、ここから見えてくるものとして、以前、委員もおっしゃっていましたが、「近隣施設まで徒歩何分で行けるかも書いてあったらもっと便利になるのではないか。」「バス停の名称も、地名ではなく〇〇スーパー前に変えた方がわかりやすくなるのでは。」など、実際作ってみることで小さな改善点が見えてくるかもしれません。そういったものを運行協議会だけで考えるのではなく、利用者の方とも一緒に考えていきたいと思います。これはキックオフですので、これが終わりなのではなく、これを全線で毎年こういうことを繰り返しやっていこうと思っています。これをするすることで、各路線の1年間の取組の評価の手法も作り上げていきたいと考えています。

委員 バスマップ作成の基本的なところなのですが、これは地区別に1枚ずつ作るのですか。

事務局 そうですね。今の考え方ではまず路線単位でそれぞれに作らせていただいて、今課題になっている乗り継ぎに関しては、どのバス停で乗り換えが可能かという表現しかできないと考えます。しかしそれを全地域にやっていくことで乗り継ぎの時間帯の調整をするなどですね、新しい乗り継ぎの場所を探るなどのことが追々できてくると考えております。今回は、モデル地区として美旗地区の2路線でそれぞれにバスマップを作成します。ここにありますように、通院編・お買い物編といった目的別にするのかなどは、ワークショップでの整理の仕方によって変わってくるのかなと考えております。

委員 本来の理想であれば、その地区の方だけが利用するのではなく、利用者を増やすということに立ち返るのであれば、はたっこ号に乗りたいたいというときに自分の近隣のバスからはたっこ号にどう行くかというのが1枚で分かるのが、みなさんが利用しやすい本来のバスマップだと思います。私のようなはたっこ号がどこを走っているのかわからない人にとっては自分が行きたいところに1本で行けるのか、乗り継ぎがあるのかはわかりません。コミュニティバスではあるかもしれませんが、1枚のバスマップの中で全路線が見れた方がよいと思います。

事務局 最終形のバスマップとしては、このような路線単位の形ではなく全路線が網羅されたバスマップになると思いますが、今回、モデル的に実施させていただくのは、地域の方のおでかけを促すような、メインとしてはバスマップというよりもおでかけマップを作ろうと考えております。最終的には、全路線のバスマップを作っていきたいと思っています。

委員 先ほどの委員の意見に賛成です。そうでなければならぬと思います。そうでないいろんな人のニーズに応えていけません。しかし、コミュニティバスが運行され始めて相当長いことやっているところもあるのに、なぜ今バスマップなのかと思います。悪いことではないのですが、なぜ今なんでしょう。とっくにできていて当たり前じゃないかと思います。利用者ファーストの取組をしないといけぬ。この前、この部会で停留所を何か所か回ってそれぞれの表示の方法や整合性のない表示を見ましたが、それは改善されたのでしょうか。

事務局 未だ改善までは至っておりません。

委員 せっかく事業推進部会で見に行って、ここを改善しないといけないなということがわかったのに、半年経ったのにまだ改善されていないですか。これでは何のために行ったのかわからない。だから、バスマップも停留所の改善も含めて利用者ファーストになっていない。利用者を増やすために早く改善しないといけないと思います。

委員 早くしなければという意見はごもっともだと思うのですが、この事業推進部会でできること、地域の皆さん、運行協議会の皆さんそれぞれと話し合いをする中で進めていくものだと思いますので、半年前に調査して結果がまだ反映されていないというのは少し厳しいご意見かなと思います。ただ、マップを作ることは全路線を網羅することを最終目標として、今、おっしゃられたように駅への乗り継ぎのために地域のコミュニティバスをどう乗り継いでいくといったところについては、一步一步前進していく形で作り上げていかなければならないと考えておりますので、今年度については、はたっこ号をモデルとして、どのように利便を高めていくのかを検討していくとともに、また、はたっこ号は地域の要望を受けて運行ルートを拡大したところで、ちょうど実証運行中ということもあり、改めてここで乗り込み調査をすることで実証運行の効果の検証やニーズの掘り起こしにもつながるのではないかと思います。そして、スピーディーさに欠けるというご指摘につきましては、お気持ちはよくわかるのですが、一方で何もかも進められるということでもないので、歯がゆく思っていたかもしれませんが、今回は、とりあえずバスマップの美旗地区版とお考えいただいて、進めていただきたいと思います。

部会長 おそらくほかの地域でも市内の全路線網を作るときには、1年程度で議論して作っているのではなくて、だいたい2、3年議論しながら進めていくものです。また、全戸へ配布することとなり、改定中に路線変更があると再配布することにもなりますので、かなりの予算がかかってきます。ですので、安易に作ってしまうと、路線の変更があった場合、マップに反映することができなくなってしまいます。最終的には、三重交通を含めた市内の路線図を提供しないといけないと思いますが、まずは1つの地域だけでもかなり議論が必要だと思いますので、そこをまず詰めていき、その地域をモデルケースにして、ほかの地域に拡大していくという形になろうかと思いますので、まずは「はたっこ号」を対象といたします。はたっこ号の運行範囲は狭くはないので、どういったところでどういった利用をするのか、市が作成することとなると、十勝バスのようにスーパーの名前をそのまま入れていいのかといった議論も必要になると思います。

委員 はたっこ号は運行されてどのくらいたつのですか。

事務局 平成24年から運行しております。

委員 運行されて約5年ですか。利用人数や頻度などは会社の方で記録されていると思います。それを参考までに見せてもらうことは可能でしょうか。

委員 会社というよりも、美旗の地域づくり組織が運営しており、そしてバスの運行は民間の会社に委託しています。

事務局 利用人員や運賃収入は、毎月市へ報告をいただいております。本日の資料のコミュニティバスの現状の中に月ごとや便ごとの記録は添付しておりませんが、運行開始からの年間の記録が載っております。月ごとの記録も、事務局の方で保管しております。

委員 どういう目的で利用されているというところまではわからないのですか。

事務局 2年前の乗り込み調査の結果はございますが、そこから現在までの記録はございませんので、今回の乗り込み調査で確認していきたいと思います。

委員 利用されている方も年々歳をとられますので、利用頻度や目的も多少は変わってくると思います。ですので、毎年アンケートをとることが必要だと思います。

事務局 アンケートの調査票を見ますと、利用頻度や目的、行先などの項目がございますので、そういったところでカバーできると思います。また、各コミュニティバスの運行協議会が1年間の運行を自己評価し、それを公共交通会議で報告をいただくことになっておりまして、その報告にあたり地域の方でこのような乗り込み調査を行っていただくといったことも検討しておりますので、毎年こういった調査で確認できるようにと思っております。

委員 緑が丘の運行協議会会長さんは、ご自分で研究をされてコミュニティバスの運行のあり方について文章も書かれています。調査をはじめとして利用者を増やすためにいろんなことをしている運行協議会の方もいます。

委員 今回のヒアリングの目標件数はありますか。

部会長 特にございません。乗車された方全員にお聞きしたいと思っております。

委員 1日20人程度ですかね。

委員 アンケートによって時刻を変更するといったことはありますか。

部会長 バスマップ作成のための調査なのでそのようなことはございません。

委員 このヒアリングの検証結果は美旗の協議会の方も協議をされるのですか。

部会長 はい。ほかの地域の協議会の方でも知りたいということであれば提供はさせていただきます。

委員 では、美旗の協議会の方で時刻表を変更されるということはある得ますか。

部会長 あり得ます。

事務局 今回の調査はバスマップ作成という目的で行いますが、もう1つのねらいとして、各コミュニティバスの評価システムを毎年整えていくことになっておりますので、その評価のしかたと改善の方法、仕組みを整えていきたいと思っております。毎年4月に各路線で評価していただくことになっておりますが、評価の手法ややり方については確定したものはございませんので、モデルとして実施することにより進めていきたいと思っております。さらに、実証運行の検証にも使っていただける形で協力をお願いされてもっております。成果についてですが、地域の方に向けて、ワークショップで作成したマップが、おでかけのヒントとしておでかけマップというかたちで出てきます。時刻やバス停の位置についての要望や提案については、ワークショップの中で意見書としてまとめていただいて、地域公共交通連携協議会という各運行協議会の連合体に提案させていただこうと考えております。この連携協議会は、コミュニティバス各路線が、路線ごとにどうかという評価と、ネットワークとしてどうかというのをみなさんと検討していただく会議ですので、乗り継ぎの時刻の調整などの参考になればと思っております。

委員 主旨からは離れるかもしれませんが、このはたっこ号の運行ルートは、何を基準に考えられたものなのですか。

- 事務局 地域からの要望でルートを考えて聞いております。当初バスを走らせる際に区ごとにアンケートをとって「あなたの区は走ってほしいか」と聞いたそうです。いらないと言った区もあったそうですが、当時は必要ないと言った区もやっぱり走らせてほしいという要望もあり、今の路線拡大運行を考えていただいたという経緯がございます。そのように基本的には地域のニーズに応じたルートになっております。
- 委員 運行ルート図を見せてもらおうと、高齢者の方が利用するような施設が少ないと思いますが、その点についてはいかがでしょうか。ただ駅まで運んでいるようにしか思えません。
- 部会長 名張市では、バス停の位置決めは各運営協議会の中で議論しており、公共交通会議でここにバス停を作りなさいという議論はしておりません。バス停も数多く設置すれば即時性が失われますし、バス停をここに作りたいといっても警察が許可しない場合もあります。ほかにも様々な事情があると思いますが、美旗の協議会の方でどのような協議があったのかはわかりません。ほかの運行協議会でもそのように路線やバス停を決めていると思います。
- 委員 はたっこ号のバスマップには三重交通の路線も掲載するのでしょうか。また、全コミュニティバスの路線図を見てみますと、北中、桔梗が丘中のあたりはコモコモ号と路線が重なる部分があると思いますが、それもバスマップに載せるのか、載せないのかどちらでしょうか。
- 部会長 まだそこまでは決めておりません。
- 事務局 それはワークショップ等での皆さんのまとめ方によるものだと思います。マップはポンチ絵になるか、もう少しリアルな地形も入ったものになるかもしれません。ポンチ絵でもコモコモ号との乗り継ぎの記載はできると思います。そのあたりはみなさんの中で整理していってもらえたらと思います。
- 部会長 まずご説明にもあったように、はたっこ号を例にとりまして、聞き取り調査を行い、ワークショップを通じて3月のバスマップ（案）の作成に向けて動き出すということで、今日はここまでにさせていただきたいと思います。何かお気づきの点ございましたら、私か事務局の方にご意見いただきたいと思います。また、今回は生活交通を主に考えておりますので、観光などに関するご意見もあるかと思いますが、まずは生活交通に関するご意見をいただけたらと思います。

②公共交通利用促進の取組について

- 事務局 （資料に基づき説明）
- 委員 こういうのは毎年しておられるのですか。
- 事務局 こういった取組を始めたのは去年からです。
- 委員 絵の描かれたバスが走っているんですね。
- 事務局 はい。どの路線という限定はされていませんが、市内のどこかで走っております。
- 委員 そうですか。今度探してみます。
- 委員 ②～⑤まで時間が入ってないですが。
- 事務局 交通安全フェスタは10:00～、バスの乗り方教室は10:25～、かがやきフェスタは10:00～、とれたて!なばりは10:00～となっております。

委員 昨日がちょうどバスの日だったので、利用促進として昨日市役所の方にも来ていただいたのですが、啓発でお配りしたものを今日お持ちしましたので配布させていただきます。各市町村で主にこのボールペンをお配りして利用促進の活動をいたしました。ものを配るだけで利用促進になるのかという意見もあるかもしれないのですが、やはりプレスが大切だと思います。これは今日の朝刊ですが、バス協会会長である三重交通の社長のコメントを掲載いただいております。イベントをするにあたっては、プレスをうまく利用し、翌日の新聞やテレビに載せてもらうことでとても影響力があると思います。もう1つクリアファイルがあると思いますが、これは三重県内の全小学校2年生にお配りしたものです。2年生は生活科で公共交通に関する授業があるということで、もう10年くらいに継続しています。バスの乗り方教室では、実際にバスを呼んで、実際の切符を使ったり、ICカードを使い乗車体験をしてもらいます。そこから、家族の方にも乗ろうと言ってもらいたいのも目的でございます。名張市さんはこういったイベントも熱心に取り組んでおられて、私の知る限りでは1番多いのではないかと思います。

委員 明治36年9月20日に初めてバスが運行して、最初の乗車人数は5名と聞きました。
委員 昨日の三重テレビで観ていただいたんですね。最初のバスは人力車の後ろに4、5人くっついたようなものだったそうです。あと、参考にですが、みえ交通安全・環境フェスタというイベントが30日に県の博物館で開催されます。これは三重運輸支局と三重県自動車会議所が主催ではあるんですが、バス協会からもお絵かきバスをしたり、子どもさんの制服の試着をしたり、また、今年は特別にレトロなボンネットバスを富山の方から呼びまして、実際に中に乗れて写真を撮ることができます。さらに、バスの絵コンテストというものもございまして、表彰式を同会場で行います。

委員 昨日テレビを観ていましたら、三重県の免許返納率が全国で最下位であるということで、そこで思ったのが、コミュニティバスが走っているという情報が必要な人のところに届いているのか、そこからバスを利用してもらうためにどういったアクションが必要なのかということなど、点々としているものをどうつなげていくのかということが非常に大事であると思いました。高齢者は、運転に不安があっても生活のために車を使わざるを得ないという現状もございまして。バスは便利というよりも実際は不便なものなのですが、自分が事故を起こすというリスクを考えれば、少々の不便があっても利用できるバスがあるという情報が必要な人のところに届く手立てを考えていくことが必要だと思いました。

委員 メディアについて考えてみますと、テレビでよく路線バスの旅といった番組が放送されていると思うのですが、あれってついつい観てしまうんですね。バスを身近に感じることのできるいい番組が多いと思います。名張でも例えばアドバンスコープなどを使ってはたっこ号は1日どんな動きをしているのかといったことを、情報提供していただけたらと思います。例えば、この路線を使ってこういう動きで名張はまわれますよ、ここで乗り換えたらこんなところも行けますよといったバスを視覚的に身近に感じることのできる取組も面白いと思います。紙面でアピールをしてもなかなか皆さんが乗ってくれないところもあると思うので、視覚に訴えるためにも、アドバンスコープに働きかけていただいて、地域の買い物やおいしいものを巡ってもらうなどいろいろなことができると思います。

- 部会長 京都なんかは電車よりバスの方が便利ですね。京都は意外と電車での移動は不便です。
- 委員 東京も乗ってみるとバスの方が楽ですね。終点まで寝ていても着きますからね。それで割と終点がその地域の主要な場所ということが結構ありました。もちろんしょっちゅう便が出ているわけではないので、時間を合わせないといけないのですが、それが合うと電車よりはるかに体も楽ですし便利です。
- 委員 今後の段取りなのですが、先ほど言っていた乗り込み調査ですが、委員の皆さんにご協力いただくといったことについて事務局の方から何かご説明はあるのでしょうか。
- 事務局 今日の会議の最後にお話ししようと思っていたのですが、この取組の中で、資料2にもございますが、お時間ありましたら、覗きに来ていただく程度で結構ですので、ご参加いただければと思います。乗り込み調査の方もできれば一緒に乗り込んでいただいて、利用者の方の声を聴いていただくいい機会だと思っておりますので、可能であればご協力いただけたらと思います。今の予定で言いますと、10月16日の週でございますが、この日1日なら参加できるなど、またご連絡いただきたいと思っております。
- 委員 何時からですか。
- 事務局 1便は8時15分ですが、皆様や事務局の体力の問題もありますので、1日ではなく、半日ずつなどでシフトを考えていきたいと思っておりますので、ご参加いただける日時を事務局に教えていただければ幸いです。
- 委員 例えば午前中か、午後か、ということですか。
- 事務局 16日からの平日の一週間です。また、調整していただいてからのご連絡で結構です。少しお時間をいただいてよろしいでしょうか。本日欠席の委員の方からFAXが届いておりますので、ご紹介させていただきます。
- 本日は欠席なのですが、ぜひこの部会で検討していきたい、していただきたいこととして2点いただいております。1つ目です。市民の方は土日ナッキー号が走っていると思っています。ナッキー号の土日の運行に向けた試験運転への具体的な話し合いをぜひやっていきたいというご提案でございます。かねてから市民の方からナッキー号の土日の運行について多くの意見をいただいております。実現のためには実証運行、試験運転からはじめていこうというお話はこの会議でもあったのですが、いざ具体的にどう取り組んでいくかという議論はまだできておりませんでしたので、これから詰めていきたいというご提案でございました。2つ目です。市職員さんたちとの懇談だけでは意味が感じられず、委員さんにも聞いてほしい。市民の方から直接生の声を聴くための懇談会のようなものをこの会議として開催されてはどうですかというご提案です。おそらく今日資料で付けさせていただいたおしゃべり喫茶のようなイメージかと思われかもしれませんが、要はこの部会として、乗り込み調査もそうですが、地域の皆さんの声を直接聞くような活動をしていってはどうですかというご提案でございました。他にもまだありますが、まずは何か目に見える形で実現できるよう、検討していただけるよう希望しますということで、本日FAXを頂戴しております。
- 部会長 今のご提案について何かご意見等ありますか。市民の生の声を聞くというのは昔コミュニティバスを立ち上げるときに住民説明会で各地をまわったのですが、結局皆さんバスのこ

とをあまりわかっていないので、もしするとしたら勉強会の方がよろしいのかなと思います。どういう運行形態でどういう法律に則って運行しているのかは皆さん知らないと思います。

委員 先程の委員の意見の中で、市民の方はナッキー号の土日の運行はされてないことを知らないということでしたが、私もそれを全く知りませんでした。なぜ土日は運行していないのですか。

事務局 ナッキー号の運行目的は、公共施設を中心に市街地を循環するというということで走らせておりますので、土日は公共施設も休みとなることから、ナッキー号は運行しておりません。

委員 基本的なところですが、ナッキー号のように幹線循環のバスは知っていても、各地域のコミュニティバスについては全く知らないです。私たちは市民公募ですので、市民の声を聞くということであれば、私たちに聞いていただいてもいいわけです。この間も津に研修に行き、みどり号の運行協議会の会長にコミュニティバスの運行について、運行路線を替えるにしても時間などさまざまな問題があることなど、コミュニティバスの実情・実態をお聞きしました。そういった中で少しずつわかってきたという状況です。そういう意味で市民公募なので、聞いてください。また意見も言いたいなと思います。ここにおられる方は、市民でもあると思います。そういう意味でも意見をきちんと出し合って話し合っていきたいと思います。

部会長 ナッキー号が土日に運行していないということは市民の大半の方は知らないと思います。利用したいと思っている方は市役所に要望すると思うのですが、簡単に考えれば、それだけ需要がないのに土日運行してもいいのかということも1つの意見として当然あります。利用者が多くいけば運行してもいいと思いますが、そのあたりの調査も実証運行に向けてしていかなければなりません。土日の運行の需要が本当にそんなにあるのかということもまだわかっていないので、実証運行するのであればまずそこから取り組まないといけないと思います。おそらく、みなさんは土日に運行しているかどうか、興味がないので知らないのだと思います。ほかのコミュニティバスについても、特に生産年齢人口あたりの人はバスを利用しないと思いますので、自分の地域のバスは知っているかもしれませんが、ほかの地域のバスについてはおそらく知らないと思います。そこを少しでも認知を広めて、利用者をできるだけたくさん確保して路線を維持していきたいと考えています。バスをなくすのは簡単ですが、なくなると不便を強いられる方はたくさんいますし、今、免許返納についても言われていますので、それに逆行するような施策にならないようにしていくべきだと思います。さらに利用者が減少すればバスである必要はなくなりますが、バスの代わりになるものと考えていかなければならないと思います。

委員 根本的なことかもしれませんが、今回はたっこ号をモデルとした理由について教えていただきたいです。美旗地域で4年走っているわけですから、運営協議会の方で利用促進についていろいろ考えていて今に至ると思うのですが、そういうベースのようなものが何かあるのですか。というのも今回アンケートを取ろうとしている目的等があいまいだと感じました。

事務局 美旗地域をモデルケースとさせていただいた1つ目の大きな理由と言いますが、このたび運行ルートを変更いたしまして、実証運行をさせていただいております。このルートでいいのかという評価が本格運行に際して必要になると思いますので、それと兼ねて乗り込み調査をして、改善策を協議会だけではなく、地域全体で考える仕組みづくりを整えていくため共同でやらせてくださいとご提案させていただきました。また、はたっこ号に関して、毎月、利用人数だけ事務局の方で把握しております。また、毎月ではありませんが各停留所の乗車人数までは記録しているのですが、どこから乗ってどこで降りたのかという動きまではわかりません。そこで、利用者の動向を探るためにも乗り込み調査を実施しようということをお願いさせていただきました。今後はこのやり方を各路線に広げていく予定をしております、それが路線の評価の手法や評価の指標を作っていくためのデータ収集につなげていきたいと考えております。

部会長 その他、よろしいでしょうか。議事で2つ議題がありましたけれども、バスマップ作成の取組、公共交通利用促進の取組については以上で終了したいと思います。

4. その他

次回の開催日程 11月7日（火） 13：00～

部会長 それでは、これをもちまして第3回名張市地域公共交通会議事業推進部会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。